

テモテ第一 1 : 8-20

「すばらしい恵みの福音」

1:8 しかし私たちは知っています。律法は、もし次のことを知っていて正しく用いるならば、良いものです。 1:9 すなわち、律法は、正しい人のためにあるのではなく、律法を無視する不従順な者、不敬虔な罪人、汚らわしい俗物、父や母を殺す者、人を殺す者、 1:10 不品行な者、男色をする者、人を誘拐する者、うそをつく者、偽証をする者などのため、またそのほか健全な教えにそむく事のためにあるのです。 1:11 祝福に満ちた神の、栄光の福音によれば、こうなのであって、私はその福音をゆだねられたのです。 1:12 私は、私を強くしてくださる私たちの主キリスト・イエスに感謝をささげています。なぜなら、キリストは、私をこの務めに任命して、私を忠実な者と認めてくださったからです。 1:13 私は以前は、神をけがす者、迫害する者、暴力をふるう者でした。それでも、信じていないときに知らないでしたことなので、あわれみを受けたのです。 1:14 私たちの主の、この恵みは、キリスト・イエスにある信仰と愛とともに、ますます満ちあふれるようになりました。 1:15 「キリスト・イエスは、罪人を救うためにこの世に来られた」ということは、まことであり、そのまま受け入れるに値するものです。私はその罪人のかしらです。 1:16 しかし、そのような私があわれみを受けたのは、イエス・キリストが、今後彼を信じて永遠のいのちを得ようとしている人々の見本にしようと、まず私に対してこの上ない寛容を示してくださったからです。 1:17 どうか、世々の王、すなわち、滅びることなく、目に見えない唯一の神に、誉れと栄えとが世々限りなくありますように。アーメン。 1:18 私の子テモテよ。以前あなたについてなされた預言に従って、私はあなたにこの命令をゆだねます。それは、あなたがあの預言によって、信仰と正しい良心を保ち、勇敢に戦い抜くためです。 1:19 ある人たちは、正しい良心を捨てて、信仰の破船に会いました。 1:20 その中には、ヒメナオとアレキサンデルがいます。私は、彼らをサタンに引き渡しました。それは、神をけがしてはならないことを、彼らに学ばせるためです。

はじめに

先週の学びでは、偽りの異なる教えがエペソの教会に入り込んだことがわかりました。そこは、指導者として召された若いテモテのいる教会でした。

パウロは、その教会に偽りの教えが入る危険性について預言し、テモテに毅然とした態度で対応することを求めました。

もうひとつ学んだことは、偽りの教えを見分けて戒め正すことは教会の指導者の責任だということです。これは、OICの指導者にも当てはまります。

パウロは、偽りの教えが信徒を信仰から離れさせ、教会内にも不一致などの問題を引き起こすと教えます。

そして最後に学んだのは、混じり気のない純粋な福音に改めて焦点を定めることが、教会内に入った偽りの教えを正すひとつの方法であることです。

そして、パウロは 8-20 節で栄光ある恵みの福音に焦点を絞ります。

福音のメッセージをしっかりと理解すると、その結果、神への賛美があふれます。

ですから、この個所のメインテーマは、主イエス・キリストの栄光ある福音をしっかりとぎり、福音によって心躍らせることです。

パウロはテモテに福音のメッセージのためにひたすら戦わなければならないと語りました。

今日の個所は、3つに分けてお話しします。8-11 節は、神の律法が罪をあらわにすること、12-17 節はイエス・キリストのあわれみが罪人を救うこと、そして、18-20 節は神の教会には守りが必要なることを教えてくれます。

これらの個所には、私たちに役立つ多くの事柄が含まれています。

今日の学びを始める前に、皆さんに美しい庭園を想像していただきたいと思います。

その庭園は、しばらく放っておかれたせいで、雑草が生え放題になってしまいました。もともとその庭園に植えられていた素敵な花は雑草に覆われて見えなくなっています。

荒れ放題の庭園など目に留まらないかもしれませんが、誰かが雑草を抜いてきれいに手入れをすれば、美しい庭園をよみがえらすことができます。

これが、テモテへの手紙でパウロが描こうとしている描写です。

テモテは、霊的な意味で、教会という庭園の美しい姿を取り戻すため、偽りの教えという雑草を取り除かなくてはなりません。

1. 神の律法は罪をあらわにする。(1:8-11)

7節を読むと、偽りの教師たちが神のみことばを誤用していたことは明らかです。

テモテ第一 1:7 律法の教師でありたいと望みながら、自分の言っていることも、また強く主張していることについても理解していません。

偽りの教師たちが神の律法をどのように用いていたのか定かではありませんが、神の律法のとらえ方を私たち自身がわかっていなければなりません。

8節で、パウロはテモテに、神の律法は正しく用いれば良いものだと言っています。

そして、神の律法の主な用途は人々の罪をあらわにし、福音へと人々を導くことだと語りま

す。
ここには、クリスチャンでない人もおられると思うので、神の律法がどこに記されているか紹介しましょう。

出エジプト記 20:1-17

20:1 それから神はこれらのことばを、ことごとく告げて仰せられた。 20:2 「わたしは、あなたをエジプトの国、奴隷の家から連れ出した、あなたの神、【主】である。

20:3 あなたには、わたしのほかに、ほかの神々があってはならない。

20:4 あなたは、自分のために、偶像を造ってはならない。上の天にあるものでも、下の地にあるものでも、地の下の水の中にあるものでも、どんな形をも造ってはならない。

20:5 それらを拝んではならない。それらに仕えてはならない。あなたの神、【主】であるわたしは、ねたむ神、わたしを憎む者には、父の咎を子に報い、三代、四代にまで及ぼし、

20:6 わたしを愛し、わたしの命令を守る者には、恵みを千代にまで施すからである。

20:7 あなたは、あなたの神、【主】の御名を、みだりに唱えてはならない。【主】は、御名をみだりに唱える者を、罰せずにはおかない。

20:8 安息日を覚えて、これを聖なる日とせよ。

20:9 六日間、働いて、あなたのすべての仕事をしなければならない。

20:10 しかし七日目は、あなたの神、【主】の安息である。あなたはどんな仕事もしてはならない。——あなたも、あなたの息子、娘、それにあなたの男奴隷や女奴隷、家畜、また、あなたの町囲みの中にいる在留異国人も——

20:11 それは【主】が六日のうちに、天と地と海、またそれらの中にいるすべてのものを造り、七日目に休まれたからである。それゆえ、【主】は安息日を祝福し、これを聖なるものと宣言された。

20:12 あなたの父と母を敬え。あなたの神、【主】が与えようとしておられる地で、あなたの年齢が長くなるためである。

20:13 殺してはならない。

20:14 姦淫してはならない。

20:15 盗んではならない。

20:16 あなたの隣人に対し、偽りの証言をしてはならない。

20:17 あなたの隣人の家を欲しがってはならない。すなわち隣人の妻、あるいは、その男奴隷、女奴隷、牛、ろば、すべてあなたの隣人のものを、欲しがってはならない。」

今日の個所で、パウロは十戒を破ることに相当する事柄をいくつか挙げています。

神の律法には他にも用途がありますが、おもな目的は、人に罪を自覚させ、イエス・キリストをとおして神の恵みと赦しをいただく必要があることを思い知らせるためです。

他にも、私たちクリスチャンが知っておくべき神の律法の目的があとふたつあります。

a) 神の律法は、世の中の悪を抑えるために与えられた。

約 1,200 年前、英国の若きアルフレッド大王が英国の法律に十戒を導入しました。彼が神の律法を重んじ、イエス・キリストに民の心向かせようと努めたので、神はアルフレッド大王を祝福されました。

過去 1,000 年以上、十戒が西洋諸国の法律の土台であり、英国の一部でもそうでした。残念ながら、現在多くの国や政府が十戒を土台とした法律を廃止し、世間の道徳意識が急激に低下しています。

私たちは、今後も社会がさらに悪化していくことを予測しておかなければなりません。

b) 神の律法は、信徒の恵みにおける成長を促す教えとして与えられた。

信徒は、十戒を守ることによって救われ赦されるものではありませんが、恵みにおける成長をはかる指標として用いることができます。

このように、神の律法の 3 つの目的を知ると、旧約と新約に矛盾がなくなります。

神の律法は神のみこころの中に今も生きていて、有効です。同じく、私たちの心の中でも生き生きと効力を発揮するべきです。

例話

日本では、毎年健康診断を受けるのが一般的です。

これはとても良い習慣です。英国にはそのような機関はありません。

私は一年ほど前に健診を受けたとき、コレステロール値が少し高めでした。

それで、散歩やスポーツなどで日常的に体を動かすよう心がけました。

朝食のシリアルには豆乳をかけるようにし、少なくとも週 4 回スイミングに行きました。

健康診断は問題を見つけるためのものであるのであって、病気を治してはくれません。

同様に、十戒は問題を見つけるためのものであるのであって、問題そのものを解決してはくれません。

罪の問題は、イエス・キリストをとおしてのみ解決できるものです。

さて、偽りの教師たちは、律法について誤った教えを施していました。その結果、信徒たちは罪を自覚することなく、福音から離れていってしまったのです。

神の律法によって私たちの罪が明らかにされなければ、恵みの福音は自分と無関係のように思えます。

教会における偽りの教えがどれほど危険かおわかりいただけたでしょう。

偽りの教えは、イエス・キリストの栄光ある福音の力を台無しにします。

2. イエス・キリストのあわれみは、罪人を救う。(1:12-17)

この個所で、パウロはイエス・キリストの福音が彼の人生を変えたと言います。

神に用いられて多くの新約書簡を記した偉大な使徒パウロは、かつては神の民を迫害する冒険者でした。

彼は自身を「罪人のかしら」と呼びます。

パウロがどのように救われたかについては、使徒 9:1-19 を読めばわかります。

使徒 9:1-19

9:1 さてサウロは、なおも主の弟子たちに対する脅かしと殺害の意に燃えて、大祭司のところに行き、9:2 ダマスコの諸会堂あての手紙を書いてくれるよう頼んだ。それは、この道の者であれば男でも女でも、見つけ次第縛り上げてエルサレムに引いて来るためであった。9:3 ところが、道を進んで行って、ダマスコの近くまで来たとき、突然、天からの光が彼を巡り照らした。9:4 彼は地に倒れて、「サウロ、サウロ。なぜわたしを迫害するのか」という声を聞いた。9:5 彼が、「主よ。あなたはどなたですか」と言うと、お答えがあった。「わたしは、あ

あなたが迫害しているイエスである。9:6 立ち上がって、町に入りなさい。そうすれば、あなたのしなければならぬことが告げられるはずです。」9:7 同行していた人たちは、声は聞こえても、だれも見えないので、ものも言えずに立っていた。9:8 サウロは地面から立ち上がったが、目は開いていても何も見えなかった。そこで人々は彼の手を引いて、ダマスコへ連れて行った。9:9 彼は三日の間、目が見えず、また飲み食いもしなかった。9:10 さて、ダマスコにアナニヤという弟子がいた。主が彼に幻の中で、「アナニヤよ」と言われたので、「主よ。ここにおります」と答えた。9:11 すると主はこう言われた。「立って、『まっすぐ』という街路に行き、サウロというタルソ人をユダの家に尋ねなさい。そこで、彼は祈っています。9:12 彼は、アナニヤという者が入って来て、自分の上に手を置くと、目が再び見えるようになるのを、幻で見たのです。」9:13 しかし、アナニヤはこう答えた。「主よ。私は多くの人々から、この人がエルサレムで、あなたの聖徒たちにどんなにひどいことをしたかを聞きました。9:14 彼はここでも、あなたの御名を呼ぶ者たちをみな捕縛する権限を、祭司長たちから授けられているのです。」9:15 しかし、主はこう言われた。「行きなさい。あの人はわたしの名を、異邦人、王たち、イスラエルの子孫の前に運ぶ、わたしの選びの器です。9:16 彼がわたしの名のために、どんなに苦しまなければならないかを、わたしは彼に示すつもりです。」9:17 そこでアナニヤは出かけて行って、その家に入り、サウロの上に手を置いてこう言った。「兄弟サウロ。あなたの来る途中、あなたに現れた主イエスが、私を遣わされました。あなたが再び見えるようになり、聖霊に満たされるためです。」9:18 するとただちに、サウロの目からうろこのような物が落ちて、目が見えるようになった。彼は立ち上がって、バプテスマを受け、9:19 食事をして元気づいた。サウロは数日の間、ダマスコの弟子たちとともにいた。

16 節で、パウロは自身の救いについて、それ以後に救われる人たちの見本だと語ります。ではこの個所で、パウロの手紙や生き方から教わる見本とは何でしょう。

a) イエス・キリストが主導者であること。(12 節)

イエス・キリストがパウロを救い、力を与え、福音の働きを託されました。偽りの教師たちは、自称教師であり、サタンに感化されていました。一方、パウロの働きと救いはイエス・キリストからのものです。

私たちがまだ罪人だったときにイエス・キリストが私たちのために死んでくださったと、聖書は語ります。(ローマ 5:8)

神がまずパウロに手を差し伸べてくださいました。神は常に、人々に手を差し伸べてくださっています。けれども人は必ずしも、イエスのもとに来て赦しを受けようとしません。

神は、私たちが罪から救うために、御子イエス・キリストをこの世に遣わされました。パウロはこのことを理解していました。私たちはどうでしょう。皆がちゃんと理解していることを願います。

b) パウロの罪(13 節)

パウロは、当時の自分が無知と不信仰によって行動したと言いますが、自らの罪については正直にオープンに語っています。これは、サタンを喜ばせず、神の恵みを明示する行為です。

私たちが自らの罪について正直でオープンであるべきです。

まだクリスチャンでないなら、私たちは神の律法を明らかに破ったことがあり、有罪なので、神の裁きに値する者です。

私たちが神の目から見た罪に対して正直にならない限り、神の驚くべき恵みを体験することはできません。

神に何も隠しごとはできません。神は私たちの心のうちも行動も、過去現在未来にわたってすべてご存知です。

c) イエス・キリストのあふれる恵み (14 節)

パウロは 14 節で、常に水をあふれさせる泉の様子をうるわしく描きます。

私たちがイスラエルを訪れた際、ヨルダン川の滝を見ました。

私たちはそこで、水が絶え間なく池に注ぐ様子を見ました。

イエス・キリストのあふれる恵みあわれみは、自らの罪を自覚して認める者だけに与えられます。

パウロという福音の見本は、今も健在です。

イエスは私たちに罪と赦しの必要性を知らせてくださいます。そして、私たちが悔い改めて赦しを求めると、神のすばらしい恵みが私たちに注がれます。

神は私たちを内側から変えてくださいます。

神が私たちの心を変えてくださるので、その結果、生き方も変わります。

パウロは、クリスチャンを迫害する者から、イエスの弟子、すべてのクリスチャンの友へと変えられました。そんなことができるのは神だけです。

3. 教会には守りが必要である。(18-20 節)

18-20 節で、パウロはテモテに命令を与えます。

それは、その件についてテモテに選択の余地はないということです。パウロの言うとおりにしなくてはなりません。

パウロは、この個所で重要な事柄を 4 つ述べました。

- 1) パウロは、テモテが教会の指導者として神から召されたと改めて語ります。
テモテは、神のみことばの真の教えに立つ神の権威をゆだねられていました。
テモテは、この件について神から権威を授けられていたわけです。
パウロは、テモテが新生し、神に務めを託された者と心得ていたので、教会内の問題解決に乗り出しなさいと命じました。
- 2) テモテは、「戦い抜く」ようにと命じられています。これはずいぶん深刻そうな表現ですが、実際に深刻だったからです。けれども、その戦いは銃や爆弾を使ったこの世の戦いではありません。
それは、霊の戦いです。

コリント第二 10 : 3-6

10:3 私たちは肉にあって歩んではいても、肉に従って戦ってはいません。 10:4 私たちの戦いの武器は、肉の物ではなく、神の御前で、要塞をも破るほどに力のあるものです。

10:5 私たちは、さまさまの思弁と、神の知識に逆らって立つあらゆる高ぶりを打ち砕き、すべてのはかりごとをとりこにしてキリストに服従させ、 10:6 また、あなたがたの従順が完全になるとき、あらゆる不従順を罰する用意ができています。

霊の戦いは、常に思考の戦いです。

サタンが私たちの思考を感化できれば、間違っただけの行いや偽りの教えに関わるようになるのは時間の問題です。

サタンの力はその嘘にあります。嘘が暴かれ、真理が提示されれば、サタンの力を打ち破ることができます。

ヨハネ 8 : 44

8:44 あなたがたは、あなたがたの父である悪魔から出た者であって、あなたがたの父の欲望を成し遂げたいと願っているのです。悪魔は初めから人殺しであり、真理に立つてはいません。彼のうちには真理がないからです。彼が偽りを言うときは、自分にふさわしい話し方をしているのです。なぜなら彼は偽り者であり、また偽りの父であるからです。

- 3) パウロは、事態の深刻さを指摘します。ここで、「破船」という誰にでもよくわかるたとえを使いました。
この当時、長距離輸送はすべて船で行いました。
破船はよくあることで、積荷だけでなく人命も失われることがありました。
パウロは、偽りの教えのせいで人生が破船してしまった人がいるとテモテに語っています。もし指導者が偽りの教えを持ち込めば、その本人自身の人生が破船するだけでなく、教えを受けた人々の人生までも巻き込んでしまいます。
過去 30 年で、そのようなことが起こるのを見たことがあります、とても残念なことです。
けれども、真の信徒は必ず神のみことばの真理に立ち返り、自らの過ちを認めます。
- 4) 20 節でパウロはテモテにしなければならないことを伝えます。
パウロは、偽りの教えに関して対応しなければならなかった人物ふたりの名まえを挙げています。ヒメナオとアレキサンデルです。パウロは、ふたりをサタンに引き渡しました。その目的は、教会からふたりを離すことでした。彼らが自分たちの考えを悔い改め、真の福音に立ち返ることを願ったことでした。
先週、3 階の交わりの部屋からある人をこの建物の外へお連れしなければなりませんでした。
その人は、偽りの教えを広めたり不適切な行為をしたりしたことで、2 年ほど前から交わりへの参加を禁じられていました。
これは、役員会で決めたことです。
この男性は、最近になって OIC に戻ってこようとしたが、もう戻ってこられないことをわかってもらいました。
私は厳しい態度でこの男性に話さなければなりませんでした。
厳しすぎると思われるかもしれませんが、教会の女性たちの安全を守り、弱い人たちの信仰を守るためです。
ときには迅速で厳しい対応が必要です。そうしなければ、さらなる問題を引き起こすからです。

適用

今日の聖書箇所から、今週の日常生活にあてはめられる教えは何でしょう。

1. 十戒が与えられたおもな目的を理解する必要がある。

この世では、世間に受け入れてもらえるように法律が変わっていています。けれども、それが正しいということではありません。神の律法が現代社会に適さないということではありません。

神の律法はまず、創造主との正しい関係において私たちがどう生きるべきか、神の基準を示してくれます。

けれども、人間がその基準に達せないことを私たちはわかっています。

ですから、私たちには神の赦しが必要なのです。そして、聖霊をとおして、神の栄光のためにより良い生き方ができるようにしていただく必要があるのです。

これは唯一、聖霊に人生を明け渡したときに、イエス・キリストをとおして可能になります。今週、聖霊と交わる時を持ち、自分の生活をどう変える必要があるのか尋ねてみてはいかがでしょうか。そして、自らを神に明け渡し、聖霊に変えてくださいと願い求めてみてはいかがでしょうか。

まだクリスチャンでない人は、イエスのもとに来て、神の律法を守れていないことを認め、神の赦しを求めてはいかがでしょうか。

そうするにはへりくだる必要がありますが、それが私たちが造られた創造主との正しい関係を取り戻す唯一の方法です。

今日礼拝後に、リフトの祈りの場でそのように祈ることもできます。

2. 神のあふれる恵みを頭でも心の奥底でもしっかりと理解する必要がある。

恵みは英語で GRACE と言いますが、それぞれのアルファベットがある単語を示します。

God's Riches At Christ's Expense

キリストによって賄われた神の富、という意味です。

つまり、神は私たちに最高の霊的な宝を与えてくださり、イエス・キリストがその支払いをしてくださる、ということです。

イエスは、ご自身の死をもって、この宝の支払いをしてくださいました。

また、私たちが負うべき罪の罰を受けてくださいました。

私たちはどう応答すべきでしょうか。

パウロは、ローマ 12 : 1-2 でその問いに答えています。

ローマ 12 : 1-2

12:1 そういうわけですから、兄弟たち。私は、神のあわれみのゆえに、あなたがたにお願いします。あなたがたのからだを、神に受け入れられる、聖い、生きた供え物としてささげなさい。それこそ、あなたがたの霊的な礼拝です。 12:2 この世と調子を合わせてはいけません。いや、むしろ、神のみこころは何か、すなわち、何が良いことで、神に受け入れられ、完全であるのかをわきまえ知るために、心の一新によって自分を変えなさい。

イエスに人生をゆだね、聖霊によってイエスの愛に満たされると、神への賛美が自然とあふれ出ます。

無理やりそうしようとしなくても、心から自然と賛美があふれるのです。

祈りや歌、イエスに仕える奉仕というかたちで、神への賛美があふれ出します。

3. イエスを受け入れ、イエスを愛している人、恵みの福音を理解している人は、教会における混じり気のない福音を守るために戦う必要がある。

他のクリスチャンの不適切な行為や偽りの教えを正して戒めるのは簡単なことではありません。

けれども、それは必要なことです。そして、神に栄光をもたらす方法でなされなければなりません。